

# 特集「人文科学とコンピュータ」の編集にあたって

山田 太造<sup>1,a)</sup>

COVID-19 パンデミックの影響により、人文科学においてもその研究環境は大きく変化しました。研究を継続するためには、フィジカルからの研究データ取得は困難であることから、サイバー空間での研究データ取得・共有が不可欠になりました。このような急激なデジタルトランスフォーメーションという波が押し寄せている一方で、IoT・Web 技術・AI・機械学習の活用といった新たな風も吹いています。この状況から、新たな環境での人文科学データの作成・管理・利活用が急務になると考えられます。1989年に発足した「人文科学とコンピュータ研究会 (SIG-CH)」は、その議論を行い、学術的・社会的な貢献を果たしてきたと考えております。

1999年に初めて「人文科学とコンピュータ」特集号が発刊されました。1999年に開始した人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん」があったものの、論文誌での特集号としては2018年まで待たなくてはなりませんでした。それ以降、隔年で企画するに至っています。

本特集号は COVID-19 パンデミックの中で論文を募集しましたが、これまでと同様に、情報技術を活用した人文科学分野の研究、および、情報技術の発展に資する人文科学に関連する情報資源の記録、蓄積、提供に関する最新の研究成果、ならびに、これらの研究に関するレビュー論文を集め、情報系の研究者はもちろんのこと、人文系の研究者など、情報技術を応用しようとする諸分野とも成果を共有することにより、研究分野の裾野を広げることを目的にしました。2020年10月から2021年5月までに30件の論文(うち英語論文は9件)が投稿されました。SIG-CHの主査・幹事・運営委員を中心とした編集委員会にて慎重な審査を経て、12件の論文が採択されました(うち英語論文は1件、採択率40%)。

採択された論文のテーマは非常に幅広く、哲学・言語学・文学・歴史学・民族学・博物館学などが対象分野であり、自動分類・自動生成・知識抽出・学習支援システム・時空間データ処理といった情報技術をキーワードとしてあげることができます。質の高い論文を採択することができました。今後も本特集号を企画する予定ですので、ぜひとも投

稿いただければ幸いです。

本特集号発刊の機会を頂戴した論文誌編集委員会委員、多忙の中査読いただいた査読者の方々、編集に協力をいただいた幹事・編集委員の方々、発刊までサポートいただいた事務局の方々、ならびに、魅力的かつ先進的な論文を投稿いただいた著者の方々に厚く御礼申し上げます。残念ながら採択されなかった論文について、さらなる研究を経た後に、「じんもんこん」や次の本特集号へぜひともご投稿いただきたいと思います。本特集号が人文科学と情報学の学際領域に一石の投じるものであることを願っております。

「人文科学とコンピュータ」特集号編集委員会

- 編集委員長  
山田太造 (東京大学)
- 幹事  
鹿内菜穂 (亜細亜大学)  
橋本雄太 (国立歴史民俗博物館)
- 編集委員  
上阪彩香 (大阪大学)  
大内英範 (人間文化研究機構)  
大向一輝 (東京大学)  
河瀬彰宏 (同志社大学)  
北崎勇帆 (高知大学)  
耒代誠仁 (桜美林大学)  
北本朝展 (国立情報学研究所)  
後藤 真 (国立歴史民俗博物館)  
阪田真己子 (同志社大学)  
関野 樹 (日本国際文化研究センター)  
高田智和 (国立国語研究所)  
田島孝治 (岐阜工業高等専門学校)  
永崎研宣 (人文情報学研究所)  
西岡千文 (京都大学)  
村井 源 (はこだて未来大学)  
森 信介 (京都大学)

<sup>1</sup> 東京大学史料编纂所

The University of Tokyo

<sup>a)</sup> t.yamada@hi.u-tokyo.ac.jp